

里親研修

特定非営利活動法人 神奈川フォスターケアサポートプロジェクト
〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台 7-28-3

助成事業の概要

実施目的

- 1 養育が難しい要保護児童が増えている中で「対応の難しい子への関わり」を学ぶ
- 2 当団体の自立支援プログラムの修了生（元里子）による体験発表、懇談会から子どもたちの声を聴く

実施時期・場所

2015 年 1 月 31 日 10 時～ 15 時 相模原市立市民・大学交流センター「ユニコムプラザさがみはら」

講師

- 第一部 国立成育医療研究センターこころの診療部 引土 達雄氏（心理療法士）
- 第二部 自立のためのスクーリングプログラム 修了生 今年度参加生

内容

- 第一部では、発達障がい児への理解と対応
- 第二部では、修了生による体験発表と今年度参加生を囲んで懇談

事業の成果

研修会に参加した里親には、発達障がいと反応性愛着障がいを分けて考える視点など具体的な養育技術の向上の機会となりどう対応したらよいかを理解していただいた。また、里子の体験発表・懇談会では、愛情はしっかり届くと確信されたり日ごろ里子さんたちがどのように感じているかを知る良い機会であった。

施設関係者と里親の交流を通じて日ごろの養育悩みの相談などしやすい関係を形成することができた。

今後の要保護児童の家庭養護推進の重要な「対応の難しい子ども」の養育への対応・相談について、里親・施設関係者の理解・協力関係が出来た。特に、国立成育医療研究センターとの連携もとれるようになったことは、大きな成果でもある。

さらに、要保護児童の自立と 18 歳以降の措置解除の里子・元里子のお互いが本心で話し合えるコミュニティが必要であることがよくわかり、多くのサポートが必要であることが認識できた。

成果の広報、公表

発達障がいと反応性愛着障がいを分けて考える視点など具体的な養育技術の向上の機会となりどう対応したらよいか理解できた。また、里子の体験発表・懇談会では、愛情はしっかり届くと確信されたり日ごろ里子さんたちがどのように感じているかを知る良い機会であった。

施設関係者と里親の交流を通じて日ごろの養育悩みの相談などしやすい関係を形成することができた。

今後の要保護児童の家庭養護推進の重要な「対応の難しい子ども」の養育への対応・相談について、里親・施設関係者の理解・協力関係ができ、国立成育医療研究センターとの連携もとれるようになった。

さらに、要保護児童の自立と 18 歳以降の措置解除の里子・元里子のお互いが本心で話し合えるコ

コミュニティが必要であることがよくわかり、より多くのサポートが必要であることが認識できた。

■ 今後の展開

従来、予算の関係もあり、一つのテーマでの半日研修会であったが、今回の第一部講演会と並行して実施した修了生と現役生との交流、第二部の懇談会という形式でより成果が大きく得られたので、来年度以降は、今年度形式を取り入れていく。

また、自立を目前に迎えた高校生ばかりでなく、小中学時期に必要な支援（里親子との愛着関係に加えて、その時期の成長に合う自分の将来像の形成に役立つ）を当団体として、今まで以上にサポートしていく。

さらに、社会的養護の推進を支援する団体として、「自立のためのスクーリングプログラム」、小中学生を対象に取り組んでいる「はっぴいすまいる」さらに、研修会を通じて、里親制度の普及・啓発に取り組んでいきます。